

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）事後評価結果

大 学 名	立命館大学
整 理 番 号	i-4
事 業 名	産学国際協働 PBL による南アジアの異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	<p>本プログラムは、立命館大学理工系3学部・3研究科がインド工科大学ハイデラバード校、ニッテ大学及びシンビオシス国際大学と連携関係を構築・強化し、産学国際協働 PBL（問題解決型の学習）、学生交流や共同ワークショップ、インターンシップ等を含む多彩な学生参加型プログラムを通じて、多様な価値観の中で協働し課題解決に取り組むことのできる高度理工系人材の育成を目指して実施されたものである。</p> <p>インド工科大学ハイデラバード校との間で産学国際協働 PBL を具体化した上で実績を挙げたほか、参画企業や技術者から高い評価を得た。また、それぞれの連携校の特色を勘案しつつ、学部生・大学院生の派遣・受入の実施や、ワークショップの開催、インドのみならず東南アジア諸国の大学を含む学生交流など、事業計画の大半において、当初目標を達成している。特に、産学国際協働 PBL やインド研究派遣プログラム等の学生の主体的な学びを重視したプログラムの策定と運営において、日印大学間連携の一つのモデルと呼べる成果を挙げている。さらに、プログラムの内容や成果を学内外に広く発信する取組も重視され、ウェブサイトやリーフレットを通じて学生にインドへの関心を喚起しつつ、学生交流から教員・研究室に至る人的交流が拡大された点は、大学の国際化に大きく寄与したものと評価できる。</p> <p>一方で、当初目標の一つであった大学院生を対象とするジョイント・ディグリー制度等の確立については交流相手先大学との調整に困難を伴ったが、本事業によって構築された連携関係をさらに強化しつつ、引き続き取り組んでいくことが期待される。また、事業開始2年目以降は計画を上回る派遣・受入学生数を達成しているが、単位取得を伴う受入学生数については実績が目標値を下回ったことから、その要因の分析と今後の展開が望まれる。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、立命館大学は平成26年度に本事業で採択された唯一の私立大学であることから、国公立大学にはない私学独自の経営と運営の強みを活かしつつ、インドとの私立大学を中心とする連携を拡大するとともに、引き続き質保証を伴うプログラムを実施することで、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことを期待する。</p>